

八代未来づくり総合戦略(案)

令和 8 年 3 月

八 代 市

— 目 次 —

第1章 計画の概要

- (1) 「八代未来づくり総合戦略」の位置づけ
- (2) 計画期間
- (3) 施策体系
- (4) 推進方針

第2章 施策の推進

- 1 市民から見える、市民の声を聞く信頼されるまちづくり
 - (施策1) 透明性の高い市政運営の推進
 - (施策2) 市民サービスの向上と行財政改革の推進
- 2 地の利・人の利を活かしたまちづくり
 - (施策3) 稼げる農林水産業の推進
 - (施策4) 農林水産物等の販路開拓・拡大
 - (施策5) 人流・物流拠点の整備と活性化
 - (施策6) 観光資源を活用した賑わいの創出
 - (施策7) 商業振興による賑わいの創出
 - (施策8) 地域産業への支援と企業・人材の誘致
- 3 市民格を高める文化薫るまちづくり
 - (施策9) 文化芸術活動の推進
 - (施策10) 多様な歴史文化遺産の活用
 - (施策11) 生涯学習推進体制の整備
 - (施策12) スポーツ活動の推進
- 4 災害からの復旧・復興まちづくり
 - (施策13) 被災地の復旧・復興
 - (施策14) 生活・社会基盤の強化
- 5 産み・育て・学べてよかったまちづくり
 - (施策15) 結婚・出産・子育て支援の充実
 - (施策16) 学校教育の充実
 - (施策17) 地域と連携した学びの支援
 - (施策18) 教育基盤の整備
- 6 元気な暮らしと持続可能なまちづくり
 - (施策19) 安心できる地域共生社会の推進
 - (施策20) 地域に即した公共交通体系の整備
 - (施策21) 関係人口の創出と移住・定住の促進
 - (施策22) 環境保全と循環型社会の推進
- 7 危機に即応できる安全なまちづくり
 - (施策23) 市民と一体となった防災体制の構築
 - (施策24) 防災・減災のための基盤整備
 - (施策25) 生活インフラの強化

第1章 計画の概要

(1) 「八代未来づくり総合戦略」の位置づけ

本市では、人口減少を克服し、将来にわたって活力あるまちづくりを推進するため、2021（R3）年3月に「第2期八代市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、総合計画でまとめた施策のうち、特に人口減少克服と地方創生に資する施策に重点的に取り組み、一定の成果をあげてきました。

一方、国においては、2025（R7）年12月に策定した「地方創生に関する総合戦略」を踏まえ、「強い経済」の実現に力点を置いた全体戦略である「地域未来戦略」のもと、国民の暮らしと安全を守り、地方に活力を取り戻すことを目指すとしています。

また、県においては、「くまもと新時代共創基本方針」の実現を図るため、今後の目標と具体的施策を取りまとめた「くまもと新時代共創総合戦略」を策定し、安心して笑顔になり、持続的で活力あふれる熊本を目指し、取組を推進しています。

本市においては、市の最上位計画である第2次八代市総合計画が、2025（R7）年度をもって終了することから、新たに「八代未来づくりビジョン」（以下、「ビジョン」という。）を策定し、めざすまちの姿の実現に向け取り組んでいくこととしています。

「八代未来づくり総合戦略」（以下、「本戦略」という。）は、ビジョンに掲げためざすまちの姿及び基本目標の実現に向け、具体的な施策を取りまとめたものであり、これまでの総合戦略で取り組んできた人口減少対策と地方創生の考えを継続するとともに、市長の基本政策である“未来を取り戻す8つの挑戦”や、全市民を対象とした意見公募の結果を踏まえた本市のリーディングプランとして位置づけるものです。

本戦略のもと、AI・デジタル等の技術も活用しながら、地域課題の解決と地域活力の創生を図り、“子どもたちが誇れるまち 八代”の実現に向け取り組んでいきます。

(2) 計画期間

本戦略の期間は、2026（R8）年度を初年度とし、2029（R11）年度までの4年間とします。

(3)施策体系

基本目標	施策
1 市民から見える、市民の声を聞く信頼されるまちづくり	【1】透明性の高い市政運営の推進
	【2】市民サービスの向上と行財政改革の推進
2 地の利・人の利を活かしたまちづくり	【3】稼げる農林水産業の推進
	【4】農林水産物等の販路開拓・拡大
	【5】人流・物流拠点の整備と活性化
	【6】観光資源を活用した賑わいの創出
	【7】商業振興による賑わいの創出
	【8】地域産業への支援と企業・人材の誘致
3 市民格を高める文化薫るまちづくり	【9】文化芸術活動の推進
	【10】多様な歴史文化遺産の活用
	【11】生涯学習推進体制の整備
	【12】スポーツ活動の推進
4 災害からの復旧・復興まちづくり	【13】被災地の復旧・復興
	【14】生活・社会基盤の強化
5 産み・育て・学べてよかったまちづくり	【15】結婚・出産・子育て支援の充実
	【16】学校教育の充実
	【17】地域と連携した学びの支援
	【18】教育基盤の整備
6 元気な暮らしと持続可能なまちづくり	【19】安心できる地域共生社会の推進
	【20】地域に即した公共交通体系の整備
	【21】関係人口の創出と移住・定住の促進
	【22】環境保全と循環型社会の推進
7 危機に即応できる安全なまちづくり	【23】市民と一体となった防災体制の構築
	【24】防災・減災のための基盤整備
	【25】生活インフラの強化

(4)推進方針

本戦略では、計画(plan)、実行(do)、評価(check)、改善(action)のPDCA マネジメントサイクルにより、検証と改善を図りながら、実効性の向上を図ります。

また、検証の過程においては、市民の皆様に広く意見をお聞きし、レビューを振り返るとともに、社会の変化に柔軟に対応しながら成果を上げていくため、迅速な対応力と継続的な改善を重視する「アジャイル思考」のもと、取組を推進します。

第2章 施策の推進

基本目標 1

市民から見える、市民の声を聞く 信頼されるまちづくり

❖ 基本目標を実現するための施策

施策【1】 透明性の高い市政運営の推進



<行政評価による見直し対象事業の洗い出し>

- 市の事務事業について、行政による内部評価の公表とあわせて、デジタル技術を活用した市民による評価を実施し、市民と行政との評価の乖離が大きい事業や効果が低い事業を洗い出し、事業内容の見直しや優先順位の明確化を行うことで、市民の視点に立った成果重視の行政運営を推進します。

<透明性の高いデジタルでの情報公開の徹底>

- 市長定例記者会見の動画配信に取り組むとともに、SNS の活用による市政情報等の発信力向上を図ります。
- 市民ニーズや社会的ニーズが高い有用なオープンデータを地域の課題解決につなげるため、積極的な公開と市民サービスへの利活用を推進します。

<市民の声が届くための職員の意識改革と制度整備>

- 職員の「聞く力」を高め、市民等の声を基に柔軟に行動できる人材を育成します。これにより、行政の視点に偏ることなく、市民の意見を市長へ届ける職員の意識の醸成を図ります。
- 「市長への手紙」による市民の声を、市政に反映させる取組を継続するとともに、市民ニーズを踏まえた新たな広聴機会の創設についての検討を進めます。

<コンプライアンス体制(公益通報制度等)の構築>

- 行政内部に設置されている内部窓口の運用について、通報・相談対応の体制とプロセスが客観性を備えるよう改善を図るとともに、弁護士などの外部専門家が関与する外部窓口を新たに設置します。こうした運用の見直しと第三者の関与を通じて、公益通報制度の信頼性向上を図り、より透明で信頼される制度を構築します。

❖ 重要業績評価指標(KPI)

指標名	単位	現状値 (R6)	目標値 (R11)
調 整 中			

施策【2】 市民サービスの向上と行財政改革の推進



<DX や AI の活用による生産性向上>

- AI や IoT をはじめとする最先端のデジタル技術を活用し、防災、福祉、産業、教育などの各分野において、市民サービスの質の向上と利便性の確保を推進し、地域活性化を図ります。
- 業務プロセスの見直し(BPR)を含めた DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進により、行政手続きの負担軽減と行政事務の自動化・効率化を実現し、職員の生産性向上を図ります。
- DX を推進する専門人材の育成と組織体制の強化を通じて、持続可能な行政運営を確立し、市民に信頼される市役所づくりを実現します。

<各支所機能を強化・活用した市民サービスの向上>

- 各支所機能を強化し、地域の特色を活かしながら安心して暮らせる、地域に寄り添った行政サービスを推進し、地域住民の満足度向上を図ります。

【坂本支所】

支所等の施設を活用し、移動販売者の誘致やミニマルシェを開催するなど、買い物機会の確保と地域の賑わい創出を図ります。また、各種行事や診療日に合わせた行政相談等の開催や地域の情報発信を積極的に行い、住民の生活支援と交流の拠点として支所機能を強化します。

【千丁支所】

支所等の拠点施設を活用した子どもの居場所づくりに取り組み、子育て世代に選ばれるまちづくりを目指すとともに、い草・畳表の PR 強化により、千丁発祥であるい草の振興を図ります。

【鏡支所】

北部拠点として、戸籍業務の充実と鏡保健センターとの連携強化によるワンストップ窓口の充実・強化を図ります。また、住民自治の推進のため、防災行政情報配信システムや SNS 等を活用し、鏡まちづくり協議会及び市政協力員会(区長会)との連携による活動体制を強化します。

【東陽支所】

豊かな農産物や文化遺産など、町の魅力ある資源を最大限に活用し、道の駅を核とした交流人口の拡大の推進を図り、地域の活性化や賑わいの創出に取り組みます。

【泉支所】

支所機能を「振興センターいずみ」へ移転し、行政・医療・産業機関が一か所に集約されたことで、市民が各種手続を同一施設で完結できるなど、更なる利便性の向上を図るとともに、地域振興拠点や防災拠点として地域の中心的役割を果たします。

<市有施設や土地等の有効活用と整理>

- 効率的な管理手法による維持管理費の抑制を図るため、サウンディング型市場調査等による民間活力の活用を積極的に推進し、市有施設や土地等の有効活用と整理に努めます。

❖❖ 重要業績評価指標(KPI)

指標名	単位	現状値 (R6)	目標値 (R11)
調 整 中			

地の利・人の利を活かしたまちづくり

◆ 基本目標を実現するための施策

施策【3】 稼げる農林水産業の推進



<農林水産業の経営力向上支援>

- 農業において、組織の経営力向上として熊本県農業法人会等と連携し、新たな事業展開の取組事例等の情報を収集・共有し、組織が新たな事業へのチャレンジを積極的に進められるよう支援します。
- 集落営農法人に新たな事業展開に関するアンケート調査等を実施し、各法人の意向確認を行うなど、必要な支援に取り組みます。
- 林業において、施業地の集約化による生産性の向上、及び主伐から再造林までの一括施業を促進することにより、再造林のコスト縮減と収益の拡大を図り、林業事業体の経営基盤を強化し、森林の適切な管理・保全を通じて林業の振興を図ります。また、林業の担い手を確保するため、機械化やICT機器の活用により、労働環境の改善を推進します。
- 水産業において、つくり育てる栽培漁業の推進や魚礁・藻場礁の設置、覆砂漁場の整備による継続的な水産資源の確保に努めます。併せて、デジタル技術の導入による漁労作業から販売までの省力化を図り、水産物のブランド化や高付加価値化の取組支援を行うことで、漁業経営の安定化を図ります。

<農地集約・法人化と新規就農の促進>

- 農地中間管理機構(農地バンク)を活用した農地貸借の推進をはじめ、経営規模の拡大に必要な農業機械の導入等を支援することで、農地集約に取り組みます。
- くまもと農業経営相談所等の活用及び相談後のフォローアップを行い、法人化の促進を図ります。
- 就農の促進を図るため、就農希望者の相談から営農の研修までの一連のサポートができる体制づくりを構築し、独立自営後は、経営安定と早期定着を図る支援に取り組みます。

<保水力向上のための森林整備>

- 施業管理の集約化により、間伐などの森林整備を推進し、所有者不明森林についても、必要な手続きを経て、市が間伐などの施業管理を行います。

<従来の発想を超える鳥獣害対策の実施>

- 効果的な有害鳥獣対策が確立されていないことから、従来の対策を継続して実施していくほか、農林業者や猟友会等の意見を聞きながら、鳥獣の天敵の活用など、従来の発想を超える新たな対策を検討、実施していきます。

❖ 重要業績評価指標(KPI)

指標名	単位	現状値 (R6)	目標値 (R11)
調 整 中			

施策【4】 農林水産物等の販路開拓・拡大



<地域ブランドづくりと農林水産物等の販路拡大>

- 大都市圏でのプロモーションや食関連バイヤー等との商談を実施し、国内での農林水産物等の販路開拓・拡大に取り組みます。
- アジアをはじめとする海外での見本市の出展やフェアの開催、海外バイヤーの招聘を通して、商談機会を提供し、海外での販路開拓・拡大に取り組みます。
- フードバレーやつしろの気運醸成と八代の農林水産物を使用した商品開発を行う事業者を支援することで、八代地域の特産品のブランド化と継続的に売れ続ける商品開発に取り組みます。

<八代産い草の新たな活用と販路開拓>

- 八代産いぐさ・畳表の良さを活かした PR を行い、需要拡大を図るとともに、関連団体と連携し、畳表にとどまらない、新たないぐさの活用方法の検討を行います。
- 国内外のマーケットにおいて、八代産のい草・畳表を活用した商品の販路拡大・開拓に取り組みます。

<食品加工施設を核とした雇用の創出とブランディングの確立>

- 食品加工施設「フードワークスやつしろ」を核として、地域の雇用の場を創出するとともに、加工品販売で得た収益を本市の“まちづくり”に再投資し、地域発展の好循環につなげます。併せて、本市物産のブランディングを確立し、リピーターやファンの獲得、拡大を図ります。

❖ 重要業績評価指標(KPI)

指標名	単位	現状値 (R6)	目標値 (R11)
調 整 中			

施策【5】 人流・物流拠点の整備と活性化



<新八代駅前開発の推進>

- 新八代駅周辺の開発については、広域からの人流や賑わいを生み出す拠点とするため、民間事業者等との意見交換等を行い、民間の創意工夫や経営能力を活かした官民連携事業として推進します。

<八代港の活用促進>

- 八代港の整備促進やコンテナターミナルの利便性向上に向け、国・県に対して継続した要望活動を行います。
- 八代港の貨物取扱量の拡大、並びに新規航路の開設や既存航路の拡充に向け、荷主企業、貨物利用運送事業者、船会社、及び日本総代理店への訪問活動に加え、ポートセミナーの開催や各種展示会への参加などを通じて、積極的なポートセールスに取り組みます。
- TSMC の熊本県進出に伴う半導体関連貨物の獲得に向けて、台湾における八代港の PR 活動を展開します。
- クルーズ乗船客の満足度向上のため、本市ならではの体験や本市の特性を活かした観光プログラムの造成などにより、市内周遊者を増やし、地域の活性化を図ります。
- くまモンポート八代の賑わい創出のため、関係機関と連携した魅力あるイベントの開催や誘致に取り組みます。

❖ 重要業績評価指標(KPI)

指標名	単位	現状値 (R6)	目標値 (R11)
調 整 中			

施策【6】 観光資源を活用した賑わいの創出



<日奈久温泉の再生、五家荘地域の観光振興>

- 若い世代が、日奈久温泉街の空き家や空き店舗などを活用した新たなビジネスにチャレンジできる環境を整えることで、日奈久温泉の再生を図ります。
- 観光客を受け入れるために必要不可欠である清潔なトイレ等をはじめとした環境を整えることで、五家荘地域の観光振興を図ります。

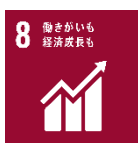
<魅力発信と観光コンテンツの開発>

- SNS やウェブサイトを活用し、本市特有の観光資源や特産品等に関する情報を多角的に発信します。
- 本市の強みである歴史・文化、自然、食などを観光資源として結びつけ、一体的なストーリーを構築し、観光コンテンツとして商品化するなど、多様な観光ニーズに対応した観光資源の磨き上げに取り組めます。
- 県や県南地域の自治体等と連携し、広域観光ルートのプロモーションを行うなど、滞在時間の延長による観光消費額の増加を図ります。

❖ 重要業績評価指標(KPI)

指標名	単位	現状値 (R6)	目標値 (R11)
調 整 中			

施策【7】 商業振興による賑わいの創出



< 中心市街アーケードのあり方検討 >

- 中心市街地へ商業・生活・文化機能等の集積を図り、賑わいと回遊性を高める都市空間を形成するために、アーケード空間の再編や公共・民間機能の集約、居住空間整備など、多面的な施策を組み合わせ、誰もが訪れやすく暮らしやすい、魅力ある中心市街地の再生に向け検討を進めます。

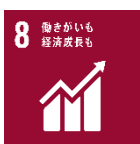
< 商業の活性化と持続的な賑わいの創出 >

- 商店街の活性化や新たな事業に挑戦する起業家等の支援、事業者の経営力向上に取り組み、商業の活性化と持続的な賑わいの創出を図ることで、映画館など民間事業者の投資を呼び込む、魅力ある街づくりを推進します。

❖ 重要業績評価指標(KPI)

指標名	単位	現状値 (R6)	目標値 (R11)
調 整 中			

施策【8】 地域産業への支援と企業・人材の誘致



<地場産業の経営力向上支援>

- 事業経営に関する幅広い知識と経験を有する商工団体が、市内商工業者に対して行う経営相談・指導業務などに対して補助金を交付することで、商工業者の経営改善を図るとともに、自己資金だけでは対応が難しい設備更新や新商品開発などの投資を必要とする商工業者へ、市の融資関連制度で資金調達を支援し、事業展開を促進することで、地場産業の経営力向上を図ります。

<企業・人材の誘致>

- TSMC 進出を契機に、半導体関連産業をはじめ、八代港・九州新幹線・高速道路といったインフラの強みを活かせる企業の誘致を強化するとともに、市内全域を対象に地域課題の解決に繋がる IT・コンテンツ企業等の誘致を推進します。そのために、企業のニーズに応じた支援体制を構築し、立地補助などの支援を行うことで、企業が立地しやすい環境の整備を図ります。
- 大学卒業等のキャリアとして「ふるさとに帰ること(ふるさと回帰)」を選択してもらえるよう、本市出身の大学生等を対象とした産学官連携による実践的なインターンシップの実施や、SNS 等を活用した就労に関する情報発信に取り組みます。

❖ 重要業績評価指標(KPI)

指標名	単位	現状値 (R6)	目標値 (R11)
調 整 中			

市民格を高める文化薫るまちづくり

❖ 基本目標を実現するための施策

施策【9】 文化芸術活動の推進



<地域を育む学びと文化の拠点づくり>

- 博物館では、優れた文化・芸術に触れるとともに、八代の歴史・文化への理解を深め、郷土への愛情を育むため、独自の調査研究に基づいた特別展覧会を開催します。一方、常設展示では、国内有数の武家コレクションである松井文庫所蔵品をはじめ、八代(高田)焼、肥後鐔、考古、歴史、民俗など、定期的に展示替を行い、八代の歴史と文化を多角的に紹介するとともに、その魅力をわかりやすく伝えることに努めます。
- 歴史文化遺産が持つ価値や魅力を発信し、市全体で共有することで市民の地域に対する誇りや愛着を育みます。また歴史文化遺産を後世に伝えるため、指定文化財の適切な保護を図り、八代市歴史文化基本構想に基づき多様な歴史文化遺産を活かした地域づくりを進めます。
- 八代市公民館や図書館、博物館、民俗伝統芸能伝承館(お祭りでんでん館)など、市の社会教育施設と文化施設が連携し、市民の文化活動や歴史・文化の学習、保存継承、交流する場の創出に努めます。

<市民アートの表現の場の創出>

- 八代市文化祭の開催により、市内の各種文化活動団体や個人に発表の機会を創出するとともに、市民に鑑賞の場を提供します。また、まちの先生派遣事業を実施し、文化芸術の担い手の育成を図ります。
- 公共空間を市民アートの展示・発表の場として活用することを後押しし、地域に根差した文化芸術活動を支援します。
- 魅力的なコンサートや演劇、講演会など自主文化事業等の更なる充実を図ることで、本市の文化水準の向上を目指すとともに、市民文化芸術活動に対し、発表と鑑賞の場を提供します。

<妙見祭の全国的なブランド確立>

- 八代妙見祭の実施団体である八代妙見祭保存振興会と連携し、さまざまな広報手段を活用した祭りの魅力・情報発信に取り組むとともに、2026(令和 8)年のユネスコ無形文化遺産

登録 10 周年を契機とした各種イベントを実施し、八代妙見祭の認知度向上と全国的なブランド確立を図ります。

- 「ちびっこ妙見祭」などの開催支援を通じて子どもたちの観覧・体験機会を提供し、地域に対する誇りや愛着心(シビックプライド)の醸成を図ります。
- 八代妙見祭の用具修復を行い、文化財的価値の維持及び保全を進めます。
- お祭りでんでん館においては、ユネスコ無形文化遺産である八代妙見祭をはじめとする市内各地域の無形民俗文化財の保存継承と、情報発信による持続可能な地域づくりに取り組みます。

<日奈久温泉での文化・芸術活動の創出>

- 日奈久温泉街の施設や空き家・空き店舗などを、文化・芸術活動を行う人たちの創作活動や発表の場、交流の場などとして利活用するよう後押しし、八代市の文化・芸術活動の活性化や地域の魅力向上につなげます。

❖ 重要業績評価指標(KPI)

指標名	単位	現状値 (R6)	目標値 (R11)
調 整 中			

施策【10】 多様な歴史文化遺産の活用



<旧八代市厚生会館の検証>

- 旧厚生会館問題の再検証については、意思決定の過程を公開して理解を深める「透明性」、市民・専門家・行政が協働して未来を形づくる「参加性」、事実やデータに基づき次世代へ責任ある判断を導く「客観性」を基本方針とし、文化団体や建築・芸術分野の専門家、地域住民など多様な立場の方々との意見交換や意見募集を行いながら取り組みます。

<良好な景観形成>

- 地域の景観に対する愛着や誇りを高めるため、小・中学校での景観授業や一般向けの出前講座を実施し、SNS やエフエムやつしろを活用して市民への景観周知を図ります。
- 景観重点地区である妙見宮周辺地区の景観形成方針に基づき、関係機関と連携し公共施設の整備や維持管理を行います。
- 景観重点地区候補において、地域住民と協議の上で特色ある景観形成方針や基準を策定し、重点地区指定を目指します。
- 景観まちづくりを行う団体などへの活動支援を行います。

❖ 重要業績評価指標(KPI)

指標名	単位	現状値 (R6)	目標値 (R11)
調 整 中			

施策【11】 生涯学習推進体制の整備



<多様な学習機会の提供>

- 社会の変化や市民の多様なニーズに対応し、あらゆる世代が気軽に学べる講座と、実践的なスキルの習得を目指す講座など、幅広い学習機会を提供します。

<社会教育施設の充実>

- 八代市公民館や図書館、博物館などの社会教育施設の整備・充実を図ります。各施設の長寿命化や市民のニーズに柔軟に対応するため、計画的な改修を行い、誰もが安全で快適に利用できる環境を確保します。老朽化の目立つ社会教育センター等については、適正な維持管理を図ります。
- 図書館資料の選書にあたっては、市民からの要望やアンケート調査による読書傾向を十分に踏まえ、利用者満足度の向上に向けて、更なる蔵書の充実を図ります。

❖ 重要業績評価指標(KPI)

指標名	単位	現状値 (R6)	目標値 (R11)
調 整 中			

施策【12】 スポーツ活動の推進



<スポーツを活かした交流人口の拡大>

- 官民一体で組織される八代市スポーツコミッションを中心に、スポーツの大会・合宿の誘致を推進することで、スポーツを通じた交流人口の拡大による地域活性化に取り組めます。

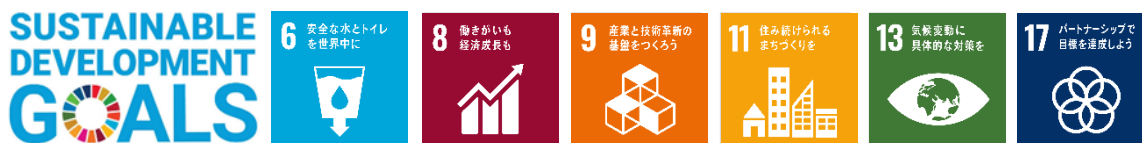
❖ 重要業績評価指標(KPI)

指標名	単位	現状値 (R6)	目標値 (R11)
調 整 中			

災害からの復旧・復興まちづくり

❖ 基本目標を実現するための施策

施策【13】 被災地の復旧・復興



<被災地のニーズへの迅速な対応>

- 令和 2 年 7 月豪雨で被災した坂本町においては、引き続き安全・安心な生活基盤、社会基盤の構築、産業・経済の再生を目指すとともに、空き家などの地域資源を活用したコミュニティの維持を推進します。
- 坂本支所を中心として、JR 肥薩線復興アクションプランの取組と連携しながら坂本駅前周辺整備を行うことで、賑わいの創出と災害からの復旧・復興を推進します。
- 「球磨川水系流域治水プロジェクト」が完了するまでの間、坂本町内における対象地区の住宅、事業所等で水災補償付き火災保険や家財保険に加入されている方を対象に補助金を交付し、水害が起きた場合の一日も早い生活の再建や住まいなどの財産を守る一助となるよう保険の加入促進を図ります。
- 令和 7 年 8 月豪雨の被災者に対し、税金や公共料金の減免措置、被災者生活再建支援金の支給をはじめとした経済的支援、みなし仮設などの住まい確保の支援、中小企業向け利子補給補助金の支給など多面的な支援を行い、生活再建と復旧を図ります。

<ボランティア団体、地域間の連帯強化>

- 災害発生時には、迅速に災害ボランティアセンターを設置し、ボランティア活動の受入調整や被災者支援を円滑に実施できる体制を確保します。
- 防災訓練や研修会等を通じて、「共助」の担い手となる自主防災組織や八代市登録防災士等との連携を強化し、地域の災害対応力の向上を図ります。

❖ 重要業績評価指標(KPI)

指標名	単位	現状値 (R6)	目標値 (R11)
調 整 中			

施策【14】 生活・社会基盤の強化



<坂本町の交通・医療・買い物対策>

- JR 肥薩線が運休となっている中、市中心部と坂本地域を接続する乗合タクシーの運行を継続することで、地域間交通の維持を図ります。また、坂本地域の各方面から市中心部への乗り継ぎ拠点である坂本支所に接続する乗合タクシーについても、維持を図るとともに、地域からの要望などを踏まえた改善を行います。
- 坂本診療所を健康や交流の拠点として、地域住民が身近に安心して医療を受けられる体制を整備します。
- 移動販売事業者に対する車両燃料費の一部を助成することで、事業の継続を支援します。また、八代市社会福祉協議会の生活支援コーディネーターや移動販売事業者との意見交換を通じて、ニーズの把握に努め、買い物困難者の支援に取り組みます。

<再度災害への対策の検討>

- 過去の災害対応の経験を踏まえ、関係機関と連携し、防災対策の基本となる「八代市地域防災計画」の随時見直しを図るとともに、地域の特性を考慮するなど、災害リスクに対応した防災体制の構築を図ります。
- 令和 7 年 8 月豪雨の検証を通じて、各種被害の要因を丁寧かつ総合的に分析し、抽出した課題に基づき、再度災害防止に向けて迅速な対策を講じるとともに、ハード・ソフト一体となった事前防災対策を加速し、災害対応力を強化します。

❖ 重要業績評価指標(KPI)

指標名	単位	現状値 (R6)	目標値 (R11)
調 整 中			

産み・育て・学べてよかったまちづくり

❖ 基本目標を実現するための施策

施策【15】 結婚・出産・子育て支援の充実



<結婚・妊娠・出産・子育ての包括的な支援体制の充実>

- やつしろ結婚サポートセンターを拠点として、結婚を望む人に対し、自分に合った相手を見つけるため、出会いから結婚までを一体的にサポートするとともに、県南地域の自治体と連携した事業の拡大を図ります。
- 安心して妊娠・出産し、子育てができるよう一貫したサポートを提供します。経済的負担の軽減と、仕事と子育ての両立支援を図るため、子育て支援サービスの充実に取り組みます。また、ICTを活用した子育て支援を推進します。
- 保護者が気軽に相談できる子育て支援拠点の充実を図ります。また、放課後児童クラブや子ども食堂などの子どもの居場所づくりを推進します。

<周産期医療体制の整備支援>

- 周産期医療体制の充実を図るため、熊本県や地域の医療機関、県南地域の自治体との連携を深め、妊産婦等が安心して出産・育児を迎えられる環境整備の支援を行います。

<障がい児保育・療育費用の助成充実>

- 保育所等において障がい児の受入を促進することにより、障がい児の健全な発達と保護者の仕事と子育ての両立支援を図ります。
- 障がい児の療育を行う児童発達支援と放課後等デイサービスの通所事業所の受入態勢の強化や新規事業所の開設などを促進するとともに、保護者の経済的負担の軽減を図ります。

❖ 重要業績評価指標(KPI)

指標名	単位	現状値 (R6)	目標値 (R11)
調 整 中			

施策【16】 学校教育の充実



<学びを支える環境づくり>

- 確かな学力を育成するために、児童生徒を対象とした総合質問紙調査(i-check)等を活用し、児童生徒が安心して学習に取り組むことができる「学びの環境づくり」を進めます。また、「授業改善ステップワン」における共通実践事項に基づいた「わかる授業づくり」を推進するとともに、家庭や地域と連携しながら生活習慣や学習習慣等の「学びの習慣づくり」を図ります。
- 市立の特別支援学校の運営をはじめ、共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築の理念に基づき、障がいのある幼児児童生徒一人ひとりのニーズに応じ、可能性を最大限に引き出す教育を推進します。また、特別支援学級だけでなく、通常の学級における支援の充実、専門性のある教職員の配置、地域との連携強化、教職員の専門性を高める研修機会の拡充と充実などを通じ、個別の教育支援計画等に基づいたきめ細かな指導及び支援を行います。
- 一人ひとりの子どもたちの実態に応じた、きめ細かな支援や教育活動の充実を図ることで教職員の負担が軽減され、授業の質や学習効果の向上により子どもたちが安心して学ぶ環境づくりを支援し、「生きる力」を育てていきます。

<ICT を活用した教育の充実>

- ICT の効果的な活用により、これまでの教師主導型の授業から子どもが自ら学び方を選択し、自立した学習者となることを目指した授業づくりを進め、全市立学校での展開を図ります。また、児童生徒の1人1台端末活用による学習ログを分析・活用することで、エビデンスに基づいた個別最適な学びを推進します。
- グローバル化の進展を踏まえ、外国語教育の充実を図ることで、主体的に英語で自分の気持ちや考えを伝えることができる児童生徒を育成します。児童生徒が個々の興味・関心等に応じた学習に取り組むことができるよう ICT を活用するなど、英語を好きな児童生徒を育成します。
- 学校のニーズに応じて ICT 支援員を派遣し、授業支援や機器操作、教職員研修など多面的なサポートを通じて ICT 活用を促進します。
- 学校教育の情報化の推進に関する方針や施策を定めた「八代市 EdTech(エドテック)推進計画」に基づき、推進体制の強化を図りながら、教育の情報化を支える環境・体制整備を進めます。

<教職員の業務効率化と人材育成>

- 教職員がより質の高い教育活動を展開するため、学校行事や会議・研修等の精選、業務のデジタル化の推進等に取り組み、教職員の業務の効率化を図ります。
- 学校教育の質の向上にも資する働き方改革を進めるため、中学校部活動の地域展開を推進します。
- 学校現場における管理職の学校マネジメント力の向上や、教職員のコンプライアンスの徹底等を図り、管理職のリーダーシップのもとで組織的な学校運営や人材育成を推進します。

❖ 重要業績評価指標(KPI)

指標名	単位	現状値 (R6)	目標値 (R11)
調 整 中			

施策【17】 地域と連携した学びの支援



<不登校児童生徒への支援>

- 誰もが安心して学べる魅力ある学校づくりに取り組むとともに、不登校児童生徒に対し、学校内外の機関が連携し、全ての児童生徒に届く多様な学びと居場所を確保しながら社会的自立を支援します。

<地域の人々も参画した子どもの学びのサポート>

- 子どもや学校の抱える課題の解決、未来を担う子どもたちの豊かな成長のために、学校と地域住民等が力を合わせて学校の課題解決に取り組み、学校運営に地域の声を積極的に活かし、「地域とともにある学校づくり」を目指して、学校と地域が一体となった特色ある学校づくりを推進します。また、「八代市地域学校協働本部」を設置して、地域学校協働活動に取り組み、各学校の学校支援活動として、①別室登校対応を含む様々な学校協力活動 ②放課後子ども教室 ③地域未来塾 を継続的・安定的にできるよう推進します。

❖ 重要業績評価指標(KPI)

指標名	単位	現状値 (R6)	目標値 (R11)
調 整 中			

施策【18】 教育基盤の整備



<学びを支える基盤の構築>

- 学校や幼稚園において、子どもたちが安全かつ安心して学べる環境を確保するため、「八代市学校施設等整備保全計画」に基づき、老朽化した施設を計画的に維持管理及び更新していきます。また、学校再編を踏まえ、地域の実情に即した施設整備の充実にも努めます。
- 児童生徒数の減少に伴う学校の少規模化、学級の少人数化による教育活動への影響が懸念されることから、子どもたちが多様な学びを通して成長できるより良い教育環境を整えるため、望ましい学校規模・学級規模となるよう、八代市立学校再編等基本方針及び基本計画（仮称）に基づき、全市的な視点から学校再編に取り組みます。

❖ 重要業績評価指標(KPI)

指標名	単位	現状値 (R6)	目標値 (R11)
調 整 中			

元気な暮らしと持続可能なまちづくり

❖ 基本目標を実現するための施策

施策【19】 安心できる地域共生社会の推進



<一人暮らしの高齢者の見守り体制の構築>

- IT 技術を活用し、高齢者の日常生活に変化がないか早期に把握し、速やかに対応できるよう、それぞれの状況に合わせた見守り体制の構築を目指します。
- 一人暮らしの高齢者に緊急通報装置を貸与し、月 2 回の安否確認を行うとともに、緊急時には適切に対応することで安全確保を図ります。
- 身寄りのない高齢者の生活上の困りごとを包括的に相談できる窓口を整備するとともに、日常生活や入院・入所等の手続きなどを総合的に支援します。

<買い物困難者への支援>

- 移動販売事業者に対する車両燃料費の一部を助成することで、事業の継続を支援します。また、八代市社会福祉協議会の生活支援コーディネーターや移動販売事業者との意見交換を通じて、ニーズの把握に努め、買い物困難者の支援に取り組みます。(再掲)

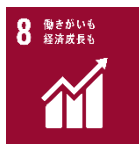
<多文化共生の推進>

- 外国人市民が、ごみの分別や防災・防犯・交通など、日常生活を送る上で必要なルールを学ぶ場や、日本人市民と外国人市民の交流機会の創出など、市民同士の相互理解を促進する取組をより多くの市民に周知するとともに、内容を充実させることで、すべての市民が暮らしやすい多文化共生社会の構築を図ります。

❖ 重要業績評価指標(KPI)

指標名	単位	現状値 (R6)	目標値 (R11)
調 整 中			

施策【20】 地域に即した公共交通体系の整備



<従来型にこだわらない柔軟な公共交通の導入>

- 運転手が不足する中で、交通手段を確保していくため、送迎バスなど地域の輸送資源を活用した多様な輸送サービスやライドシェアの導入などに取り組みます。
- 利用者にとって利便性が高く、効率的な移動手段の確保を目的に、乗合タクシーに AI を活用した予約配車システムの導入を検討します。また、新八代駅や整備中の県営工業団地周辺などにおける自動運転技術を活用した新たな輸送サービスの検討、路線バス乗車券などのデジタルチケット化にも取り組みます。

<肥薩おれんじ鉄道の活性化>

- 肥薩おれんじ鉄道の安定的な運行のため、安全対策として鉄道基盤の設備維持に対し支援を行います。また、運転士の確保についても、側面的な支援を行います。
- 肥薩おれんじ鉄道沿線活性化協議会での利用促進に向けた取組をはじめ、新たな旅行商品の開発など、県や沿線自治体、同鉄道と一体となって利用促進策を実施します。
- 路線バスや乗合タクシーなど、他の公共交通機関との乗継を改善することで、通勤・通学・通院等の利便性向上を図ります。

❖ 重要業績評価指標(KPI)

指標名	単位	現状値 (R6)	目標値 (R11)
調 整 中			

施策【21】 関係人口の創出と移住・定住の促進



<関係人口の創出>

- 地域企業・金融機関・大学・行政が一体となり、本市の産業を活性化するための原動力となる若手経営者の育成やソーシャルビジネスの創出を支援することで、地域経済の成長を促します。さらに、高校・大学のカリキュラムと連動させ、若者と若手経営者が交流できる環境を整備することで、持続的な交流による関係人口の創出を図ります。
- 都市部の人材が多様な形で地域に関わる機会を増やすため、地域イベントなど特色ある地域活動の情報を積極的に発信します。また、テレワークやワーケーション、副業・兼業など仕事を通じた地域との関わりを生み出す仕組みづくりに取り組みます。
- 地域資源や旬な話題を掲載した冊子の配布、八代市産素材を活かした食のイベント開催、都市部でのシティ・プロモーションイベント参加を通じて、八代市との接点を創出します。これらの取組により、市に所縁がある方や新たな層への認知度向上を図り、ふるさと納税の寄附拡大と関係人口の増加につなげます。

<移住・定住の促進>

- 移住・定住に伴う経済的負担を軽減するため、移住支援金や移住・定住促進補助金などによる支援の充実を図ります。
- 移住・定住に関するワンストップ相談窓口を設置し、移住コーディネーターによる細やかな相談対応や情報提供に努めます。
- 移住先として、一人でも多くの人には選ばれるよう、東京・大阪・福岡等で開催される移住相談会やオンライン相談会に積極的に参加し、本市の地域情報や住まい・仕事・子育てなどの移住・定住に役立つ情報を発信します。

重要業績評価指標(KPI)

指標名	単位	現状値 (R6)	目標値 (R11)
調 整 中			

施策【22】 環境保全と循環型社会の推進



<自然環境と生活環境の保全>

- 八代海や干潟などの豊かな自然環境を将来にわたって良好な状態で継承できるよう、生物多様性の保全に努めるとともに、自然観察会などを通じて自然とふれあう機会や場を創出します。
- 地下水を農業用、工業用、生活用水として利用するなど、地下水への依存度が大変高い地域であることから、地下水は限りある「公共水」との認識のもと、将来にわたって持続的に利用できるよう、地下水の質と量の保全に取り組みます。
- 悪臭や水質汚濁などの産業型公害のほか、民間企業による廃棄物処理施設の整備・運営についても、地元住民からの意見・要望にも適切に対処しながら、本市の良好な環境の保全に努めます。
- 関係機関と協力し、犬や猫の適切な飼い方やフン害パトロールを実施するなど、飼い主に対するマナー向上を呼びかけます。

<循環型社会の推進>

- 家庭から排出される燃えるごみに混入する資源物を減らす取組として、環境学習等での啓発を行うとともに、生ごみの減量化や助成制度について情報発信を行い、リサイクル率の向上やごみの適正処理を推進します。
- 資源ごみの回収率向上に向けて、民間収集業者と協力しながら、効率的な回収方法を検討し、ごみ排出環境の改善を図ります。
- 有料指定袋の原料にバイオマスポリエチレンを含有することにより、環境への負荷を軽減し、循環型社会の実現を目指します。

❖ 重要業績評価指標(KPI)

指標名	単位	現状値 (R6)	目標値 (R11)
調 整 中			

危機に即応できる安全なまちづくり

◆ 基本目標を実現するための施策

施策【23】 市民と一体となった防災体制の構築



<市民の災害リスクに関する認識共有の促進>

- 防災フェスタや出前講座などを通じて、市民の災害リスクに関する認識を深め、平時からの備えを促進します。さらに、防災アプリや登録制メールなど多様な情報伝達手段の利用を広げ、迅速で確実な共有を図ります。

<実践的な市民避難訓練の実施>

- 市民自らが災害時の初動活動や「自助」・「共助」の重要性を認識し、地域全体で災害に立ち向かう地域防災力の向上を図るため、八代市総合防災訓練や住民参加型防災訓練、また自主防災組織による各地域での防災訓練を実施します。

◆ 重要業績評価指標(KPI)

指標名	単位	現状値 (R6)	目標値 (R11)
調 整 中			

施策【24】 防災・減災のための基盤整備



<発災を想定した公共施設の整備、改修(避難所、防災トイレ等)>

- 地域特性や過去の災害状況を踏まえ、災害に応じた身近な避難場所の確保に努めます。また、避難所での非常用電源、断水時のトイレ対策、空調・通信などの防災機能設備の整備を進めるとともに、食料や飲料水、携帯トイレなど避難生活に必要な備蓄を確保し、安心して避難できる環境を整備します。
- コミュニティセンターをはじめとする避難所となる施設については、優先的に改修・補修工事を実施し、防災機能や災害対応力の強化を図ります。

<球磨川洪水、日奈久断層地震に備えたハード対策の推進>

- 球磨川水系流域治水プロジェクトに基づき、河道掘削、堤防整備、輪中提・宅地かさ上げを促進します。
- 市有公共施設の耐震化や防災対策を計画的に進めます。
- 大規模災害時の地域交通ネットワークを確保するため、各地域や集落間を結ぶ道路の計画的な整備を進めるとともに、橋梁等の耐震化、計画的な維持管理・更新を図ります。
- 災害時におけるリダンダンシー確保のため、高規格幹線道路や国道 3 号などの主要道路の機能強化を図るための活動及び都市計画道路などの幹線道路の整備を推進します。
- 九州縦貫自動車道坂本パーキングエリアを活用したスマートインターチェンジの設置を進めます。

❖ 重要業績評価指標(KPI)

指標名	単位	現状値 (R6)	目標値 (R11)
調 整 中			

施策【25】 生活インフラの強化



<道路環境の整備と維持管理>

- 計画的な市道の整備・維持管理を進め、歩行者・自転車の公共空間などの整備充実を図り、誰もが安全・安心で快適に通行できるような交通環境の形成を行い、危機に備えます。
- 国道3号や高規格幹線道路、地域幹線の国県道などの広域的な道路の整備を促進するとともに、都市計画道路などの幹線道路の整備を推進し、災害に強い道路ネットワークを構築します。
- 災害時における緊急輸送道路や代替路として、さらには新たな物流・人流ネットワークの創出が期待される「八代・天草シーライン構想」の早期実現に向けて、国への要望活動や啓発活動等を実施します。

<生活排水の適切な処理>

- 快適な生活環境の確保と公共水域の水質保全を図るため、下水処理施設の未普及地域への普及を促進します。
- 下水道(汚水)については、「八代市汚水適正処理構想」に基づき計画的な整備促進に努めます。
- 令和 8 年度に汚水整備が概ね完了することから、以降は地域の要望に基づき費用対効果を考慮しながら、効率的な下水道整備を実施します。

❖ 重要業績評価指標(KPI)

指標名	単位	現状値 (R6)	目標値 (R11)
調 整 中			